

2021年5月20日

最近、「昔も今もすごいぞ日本人1巻、2巻」という本に古代縄文文化及び天皇と一般民衆との関係について書かれている本を見ました。これまで私もなんで天皇というものが日本国民すべてとは言わないが、多くの人に比較的人気があることを不思議に思っていたところでした。私は戦後生まれなので憲法の第1章 天皇第1条に「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であって、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基づく。」と教科書で習ってきた世代である。すでに天皇は政治に参加してはならない。そして「象徴である」と憲法にはある。よく意味の分からない言葉だ。つまり戦前のように天皇は絶対権力者であってはならないといっているのだろう。しかしながら youtube 等を見ると世界各国の天皇人気は高い。なまじ日本の政治関係者の親善外交など比べ物にならない人気だ。不思議の国日本をまさに具現しているような感じである。

先の本によると古代天皇は非常に徳のある政治をしていたことが紹介されている。例えば「民のかまど」ということが神話の中に逸話として残っていると書かれています。これは仁徳天皇が、あるとき高台から民の暮らしの様子を見たときにかまどの煙が立ち上っていないのをみられて、民は食べるものも乏しいのだということを知り、租税を6年にわたり免除したという話です。当然のことながら、民はようやく食べ物食べられるようになり、天皇に感謝したという話が、日本書紀には示されていたそうです。以来日本の実効支配を行ってきた鎌倉幕府、室町幕府、徳川幕府等一般庶民を天皇の公民として扱い封建時代でさえ、奴隷として扱えなかったといわれております。また日本を実効支配した武士たちは戦国時代でさえ、この支配権を得るために京の都に参上し、天皇の承認を得ていたといわれています。現在の日本国憲法においても時の国会議員、内閣は国会、内閣の指示に従ってであります。必ず天皇が認証しております。こうした「民のかまど」のような話は、恥ずかしいかな私は学校で習ったこともなく知りませんでした。今もって天皇人気が高いのはこうしたことがあったためかと思われました。海外の人が天皇を見るときには一応日本のエンペラーです。そのエンペラーが災害があると被災者に慰問をし、ひざまずいて同じ目線で話を聞く。こうしたことに驚くようです。戦前の悲しい歴史もありますが今もって多数の日本人から慕われている理由もこうしたことのせいかもしれません。私も戦前現人神として日本を戦争に巻き込んでいった歴史も忘れてはならないと思いますが、日本の歴史の中で、また現在の世界の中で日本の象徴天皇の役割は大きいのかもしれないと思いました。私はこうしたことを少しも知らず、注意さえ向けなかった戦後教育の問題かもしれないと思います。日本の歴史の中で、悪かったことについては一生懸命教えられましたが、良かったことは少しも教えられない教育について、おかしいぞと思います。

これは現在の日本だけでなく戦中も含め、海外でいろいろ功績を上げられた人の話もほとんど聞きません。外国には親日国も多くあります。なぜそうなったかを私はほとんど教えられることはありませんでした。勿論悪いことでしたのでしょ。特に世界に貢献した日本人がいたことも教えてもらいたいです。もちろん、今の私たちが世界に貢献したというより、我々の先輩にあたる人たちが世界に貢献したために、今の親日国があるのでしょうか。日本は世界でも有数の教育国と知られています。だが今の教育はややおかしい！